



## 『2015年度のっぽ基金助成金選考会』結果報告

さる1月23日土曜日に「のっぽ基金助成金」の選考会が、福島市市民活動サポートセンターにて開かれました。この「のっぽ基金助成金」は、弊会にまとまった寄付を頂戴したことをきっかけに見直し、今年度から改めて制度を設計し直してのスタートとなります。この助成金の狙いは、地元の成長過程のNPOを手厚く、そして継続的に支援していきたいという中間支援NPOとしての弊会の思いがあります。

2団体に上限100万円の助成という金額の高さもあってか、初年度としては予想を上回る12団体からの応募があり、1団体プレゼンテーション15分と質疑5分の計20分の持ち時間を使って各団体にこの助成を受けたい熱い思いを発表頂きました。

昨年11月末に開いた説明会にいらっしゃった団体も数団体発表をされましたが、助成金への応募の経験が少ないことや、対象となる活動に該当するか心配される話があり、中間支援NPOの役割として、それらの団体に対して記載に関してやプレゼンの仕方をアドバイスしていた経緯があったことも報告致します。それらの団体もしっかりまとめられてい

て、中間支援NPOの役割も微力ながら果たせたのかと思います。

選考は、外部からの2名を含む5名が選考委員となり、厳正に対応して頂きました。各団体それぞれに、実行可能性、社会性、先進性、継続性・波及効果、経費の妥当性について審査し、各項目に6点ずつを持ち点とし得点をつけていき、合計点数の上位2団体を採択団体とする方式で選考しました。

助成を受けられる下記の2団体は、内容はもちろんのこと、プレゼンテーションも素晴らしく、選考委員みなさんの満場一致での決定となりましたことを報告致します。

震災復興による各種助成金の助成件数が減少しつつある中、今後とも「のっぽ基金助成金」「ふくしま元気市民活動助成金」を続け、中間支援NPOとしての役割を果たして行きたいと思えます。

また、「ふくぎんみんなのサポート助成金」の様な県内企業との協働についてもより一層力を注いでいき、県内NPOへの支援を微力ながら続けていく所存でございます。

(報告：ふくしまNPOネットワークセンター

常務理事 菅野 真)

- 石田ふるさと振興会

『森林資源を伐り起こせ！【やまもり会@霊山】プロジェクト』

- 特定非営利活動法人 あさひ福祉会

『クルマでつくる・つながるプロジェクト』



選考委員長の挨拶のあと、すぐに選考会開始



所属する団体を代表してプレゼンテーションをする皆さんからは、緊張感が伝わってきました

素晴らしいプレゼンテーションが続き、選考に頭を悩ます選考委員の皆さん



選考委員を務めてくださった佐藤英雄さんが1月27日にご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表するとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

# NPOマネジメントスクールと 「社会を変える計画」宣言

2015年7月の総会で選出された執行部は、ふくしまNPOネットワークセンターの課題のひとつは組織基盤の強化にあると考えています。そこで、まずは勉強ということで、4人そろって、NPOマネジメントラボ(現 PubliCo)主宰の「NPOマネジメントスクール」に参加してきました。というと簡単ですが、実はこのスクール、場所は東京、8~11月の月一連続4回、土曜10時開始の17時終了という、ハードな勉強会でした。

事前課題「アセスメントシート」、Day1「社会を変える計画」、Day2「事業計画」、Day3「実行計画」、Day4「仮想理事会」、そして事後の相談会というプログラム。ミッションの再定義・明確化から事

業化にいたるまできわめて実践的なワークショップの連続で、私たちはといえば、ついていくのが精一杯、某氏曰く「こんなに頭を使った研修は初めて」というものでした。そこでの成果の一端として、私たちの出発点であり、現時点での到達点でもある「社会を変える計画」ステートメント(宣言)を紹介しておきたいと思います。

これをたたき台として、理事、職員、会員のみなさんとビジョンの共有を図り、みなさんの知恵と力を借りながら、ネットワークセンターを強く柔軟な組織に鍛えていきたいと思っています。

(報告:ふくしまNPOネットワークセンター

理事長 牧田 実)

## 三役が考えた「社会を変える計画」ステートメント(非公式版)

1. 私たちが実現したいのは、福島県内のNPOが自律的に運営できている状態です。
2. しかし、NPOの組織基盤の弱さや多様な主体との連携・協働が不足しているという構造になっていて実現できていません。
3. これを解決するためには、行政・企業・他NPOなどの他組織と役割分担し、私たちは、①ネットワークの強さ、②地元からの高い信頼、③助成金を提供できる資金力、④助成金事業の受託・運用、⑤ワンストップで受けられる専門性の高い人材という強みを活かし、①助成金事業、②研究会、研修・講座の開催、③マネジメント相談、④コーディネーター派遣という事業・活動をすることで、問題解決にもっとも貢献できると考えています。
4. だから私たちは、①助成金事業、②研究会、研修・講座の開催、③マネジメント相談、④コーディネーター派遣をすることで、福島県内のNPOが自律的に運営できている状態を実現します。

## ◆中堅者研修を終えて◆

1月、中堅者研修に参加しました。NPOの中堅者とは、業務に関わって約5~10年の職員を指すそうです。全国でも中堅者の数は少なくNPO職員の定着の難しさを物語っているのかもしれませんが。

年3回に分けて行われるこの研修は、パナソニックと日本NPOセンターが主催する「組織基盤強化」をテーマとしたもので、通常の講座形式のものとは少し違います。組織基盤強化がいかに大切かを知った上で、そのために必要な研修内容を参加者が企画するのです。今年度は「組織基盤強

の診断チェックシートの作成」を行ないました。病院で行う問診票のNPO組織基盤強化版といったところでしょうか。運営がうまくいかず疑問を感じるがどこが悪いのかわからない、そんな経験を持つ団体は少なくないでしょう。その悩みを解決するべく作成にトライ。作成したチェックシートは今後、福島でも積極的に活用していきたいと思います。また、回答データを蓄積・分析し、さらに使いやすいものへと夢は広がります。

(報告:福島市市民活動サポートセンター

チーフ 内山 愛美)

# 「移動教室型」スタディ・ツアーの試み

～見る・知る・考える「福島の今」～

津波や原発事故被災地へのガイド・ツアーはいろんなところで行われています。ネットワークセンターとしても、岩手県大槌町の一般社団法人「おらが大槌夢広場」に現地案内してもらった経験を参考にしながら、福島での「福島らしい」被災地ツアーができないものかと検討してきましたが、このたび県のコーディネーター派遣事業を活用する形でそれが実現しました。

福島大学災害復興研究所が主催者で、環境省の協力を得て行った「移動教室型スタディ・ツアー」です。2月5日朝8時に福島駅を出発して帰着が夜7時半、たっぷり半日かけたツアーの間、移動中は車内でずっと私が講義をするという内容です。そこに、飯舘村に完成したばかりの減容化施設の見学、および富岡町での除染現場の視察を織り込みました。参加者は、北は弘前から南は東京まで、スタッフを含めて38名です。

参加者にとって最もインパクトが大きかったのは、飯舘村をはじめ各地で山積みされた膨大な廃棄物袋（フレコンバッグ）であったと思います。除染をすればするほどその山はうずたかくなっていく。そしてその体積を小さくするために焼却施設を莫大な費用をかけて建設しなければならない。しかもその施設はあくまでも「仮設」であって



富岡町の減容化  
JV事務所にて  
説明を受ける

飯舘村の蕨平仮設  
減容化施設を視察



車中、清水修二  
先生の講義が絶  
え間なく続いた



予定した分を処理したあとは解体処分になります。飯舘村の施設の総費用は400億円。

国道6号線で帰還困難区域を通過しながら、バリケードで封鎖されゴースタウンになった沿道の光景に、みなさん「復興の前途遠遠」の思いを等しくしたでしょう。政府は来年春に、居住制限区域と避難指示解除準備区域の避難指示を解除する方針を示していますが、実際どれだけの住民が帰還するか、誰も樂觀はできません。

今回ツアーを実施してみて思ったのは、被災地の困難な状況を伝え、原子力災害の悲惨さを理解してもらうことはできても、県民が必死になって現状打開のために頑張り、それなりに着実な成果を挙げているという「光の面」を示すことはむずかしいということです。暗いイメージばかり持ってもらうても、「ほんとうの福島」の情報発信にはつながらない。この点は改善の余地があるでしょう。

車内では質疑応答があり、また帰路の時間を使って全員から感想を述べてもらいました。「移動教室」の方法は効果があったと言えます。再び挑戦する機会があればと思います。

(報告：ふくしまNPOネットワークセンター

理事 清水 修二)

# 浜・中・会津 + サポセン = NPO中間支援力向上へ！

## ～地域活動団体中間支援センター情報交換会の報告～

ふくしま地域活動団体サポートセンターでは、県内のNPO中間支援施設9市町と復興関連中間支援組の2団体による、情報の共有と連携を目的に年4回にわたる情報交換会をおこなってきました。今年度は全体会を1回開催し、その後、浜通り、中通り、会津地方の地域別情報交換会を3回おこないました。

### 【会津地方】

第2回は12月14日(月)会津若松市の會津稽古堂で、会津地域の中間支援センターが復興支援活動にどのように関わっていくのかという問題意識のもと開催された。震災以後に各センターがおこなってきた復興支援事業・活動の事例紹介と、各センターの役割の明確化やネットワークの強化、新たな事業創出の促進に向けたディスカッションをおこない、行政との協働や支援センターとしての新たな展開へ向けた活発な議論がされた。(報告:山崎友也)

### 【浜通り】

第3回情報交換会は、1月28日(木)に南相馬市民情報交流センターで、南相馬市に設置される復興公営住宅の利用開始を目前に、復興支援団体等が事例報告や南相馬市の現状を共有することで、今後のコミュニティ形成の取組みや



県内の三地区で有意義な情報交換の場がもたれた

連携、協働のあり方を探ることを目的におこなわれた。復興公営住宅に関わるNPOの話題提供、地元社会福祉協議会の報告を受け、地元行政・復興公営住宅を受け入れる区長の参加により、地元の声が多く届けられる情報交換会となった。(報告:野地理恵子)

### 【中通り】

第4回は2月2日(火)郡山のミュージカルがくと館小ホールにて、14名が参加して開催された。中通り中間支援センター情報交換コミュニティツールとして約2か月間試験運用したFacebookの検証と今後の運用について、有効性や問題点など参加者に報告いただきディスカッションした。また、この会議の様子をリアルタイムにアップロードするなどして、情報共有の即時性を参加者全員で確認した。結果、このFacebookが情報共有ツールのひとつとして有用であるとして、引き続き運用していくことになった。(報告:後藤一光)

### —福島県より受託、運営している施設—

#### ●ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F  
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741  
URL <http://www.f-npo.jp/saposen/>  
E-mail [saposen@f-npo.jp](mailto:saposen@f-npo.jp)

### —福島市の指定管理制度で運営している施設—

#### ●福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち3F  
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560  
URL <http://www.f-ssc.jp>  
E-mail [f-ssc@bz01.plala.or.jp](mailto:f-ssc@bz01.plala.or.jp)

### —福島市より受託、運営している施設—

#### ●まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F  
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027  
URL <http://www.machi-fukushima.jp>  
E-mail [info@machi-fukushima.jp](mailto:info@machi-fukushima.jp)

### 編集後記

◆暦では春です。出会いと別れの季節ですが・・・良い出会いがあるといいなあ。(根本)

◆いよいよ最後の卒業式。子育てから卒業です。正直言うと嬉しさと寂しさが半々という感じですが・・・(大山)



◆3月に福島を去ることになりました。2年間大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。(古屋)



#### ●編集・発行

認定特定非営利活動法人

ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8068

福島市太田町 12-30 マルベリービル 6階

TEL 024-572-7930 FAX 024-572-7931

E-mail [center@f-npo.jp](mailto:center@f-npo.jp) URL <http://www.f-npo.jp/>

